

1 東浦の遺跡

むかしの人々が暮らした跡のことを、「遺跡」といいます。東浦町内でも約7,000年前の縄文時代の遺跡が見つかっており、そのむかしから人々が暮らしていました。

今回、発掘調査を行った天白遺跡は、主に弥生時代中期(1世紀)・弥生時代後期から古墳時代前期(2世紀～4世紀前半)・古墳時代中期・後期(5～6世紀)・鎌倉時代(12～13世紀)の時期に人々が暮らしたところです。天白遺跡は東浦町内で一番、いろいろな時代の暮らしたの跡が残されているところになります。

2 遺跡から見つかるもの

遺跡からは、むかしの人々が生活に使った道具が見つかります。たくさん見つかるものは、粘土で作った「土器」で、他に石で作った石器などがあります。土器は、貝や米を煮るのに使ったり、水やものを入れておくのに使いました。

道具以外に、暮らした家である住居の跡も見つかります。遺跡から見つかるむかしの家は地面を掘ってつくったもので、「**竪穴建物(住居)**」と呼んでいます。

今回の天白遺跡の調査では、たてあな建物の跡が約70軒見つかっています。竪穴建物以外に、いろいろな大きさの穴(ピット)がたくさん見つかっています。その一部は、柱の穴の跡と思われるます。

ひがしら遺跡年表

